

日赤ニュース

No. 51
2013年

発行日：平成25年11月
発行責任者：河井 繁
編集・発行：伊勢赤十字病院 広報委員会
伊勢市船江1丁目471番2
☎ 0596-28-2171(代表)
<http://www.ise.jrc.or.jp>

理念

人道に基づき赤十字病院として
質の高い医療を提供します

基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救護や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、末永く地域社会に貢献します



2013年、20年に一度の遷宮を終えた伊勢神宮

● トピックス

伊勢の神宮のご遷宮と伊勢赤十字病院
—調和の地の地域医療—

● 部門紹介

胸部外科
4Y 病棟

● 病院の動き

スポーツ大会
大規模災害救護訓練

● 地域ともっとクロス！

がん看護専門の看護師が訪問看護に同行訪問
伊勢まつりへの出展

● 第1回 病院まつり「ゆずりは祭」開催

● 教室案内



日本赤十字社 伊勢赤十字病院
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

斎王の舞に魅せられて今年4月に明和町へ引っ越してこられたという愛知県立大学清水教授にご寄稿いただきました

伊勢の神宮のご遷宮と伊勢赤十字病院 調和の地の地域医療

愛知県立大学看護学部 微生物学・感染制御学
コミュニティケアシステム 教授 清水 宣明

伊勢赤十字病院は、伊勢の神宮の地、伊勢市にあります。

先代である山田赤十字病院が名実ともに重い名前であることは歴史の中で不動ですが、新病院に伊勢の名前が冠されたことに、なぜかホッとした思いを抱いたのは、伊勢の人々や職員だけではなかつたでしょう。まず、このことを少し考えてみましょう。

「伊勢赤十字病院」と聴いたときに、人々はどのようなイメージを心に描くでしょうか。それはきっと、神都、伊勢のそれと重なるものでしょう。このような特別なイメージをもって見られるのは、日本中の数ある赤十字病院の中でも伊勢赤十字病院だけです。そして、このイメージこそが伊勢赤十字病院を考えるときのカギになると思います。なぜ、ひとりの部外者でしかない私が、こんな偉そうなことをあえて言わせていただくかというと、地域社会を含めての現代の医療現場の姿に、さまざまな疑問を感じることが多いからです。

昨今、医療の高度化や専門分化の進展に伴い、病院があたかも身体の修理工場のように受け取られる傾向が強くなっているのでしょうか。そこでは、もちろんよいこともあります、一方で医療不信（そもそも信頼関係が構築されていないこと）に起因する多くの問題も表面化するようになりました。特に、地域との結びつきがあまり強くない病院では、その傾向が強いように思われます。三重県中南部の地域医療の基幹である伊勢赤十字病院はどうでしょう。

ここで病院を受診するような身体の不具合というものを考えます。もちろん、それは歓迎すべきものではありませんが、

かといって、ひとりひとりの人生と切り離せるものでもありません。それどころか、人生の重大な一幕であることすら稀ではありません。そこでは、当然、いろいろ人のいろいろな「思い」が交錯します。そして、それらの「思い」は、この地での暮らしと無縁なものではありません。この地ならではの「思い」です。すなわち、伊勢赤十字病院が地域の基幹病院であろうとすればするほど、そこは単なる「医療機関」であると同時に、この地の人々の様々な人生の「思い」が交錯するステージでもあるのです。ですから、伊勢赤十字病院は、単なる「医療を担う組織」というだけにとどまらず、伊勢の地の文化の一部であると受け止めが必要です。医療が文化の一部なるということです。

それでは、伊勢のイメージとはいったいどのようなものなのでしょう。伊勢の神宮の神さまには（これは「日本の神さま」と言った方がよいかもしれません）、教祖も、教典も、戒律もありません。西洋のような「支配する側としての神さま」と「支配される側としての人間」という関係ではありませんので、絶対的な善や悪の観念もありません。古事記や日本書紀を読まれたことがありますか？そこに著されている神さまの世界は、まさに喜怒哀楽の人間社会そのものですが、同時にそこからは、日本人が持つ独特的の世界観や価値観がはつきりと読みとれます。

それは「調和」だと、私は思っています。人間の社会である以上、必然的に都合の良いことも悪いことも起こります。悪いことを排して良いことだけにできればよいですが、なかなかそ



うもいきません。両者は、同じものに対して見方を変えただけたり、医薬のように、ある物質が持つ様々な働きの中で、人間に不都合なものはできるだけ抑えて、都合のよいものだけを上手に使おうとするものだったりします。表と裏が絶対的な価値を持たず、微妙にうつろう風土の中で、長い時間をかけて育まれてきたのが、「良いことも悪いことも上手に調和した状態が社会のあるべき姿であり、神さまの姿である」という、日本人の感覚です。その感覚の空気が、ここ伊勢の地には今も強く漂っていて、それが人々を惹きつけるのではないかでしょうか。「調和」が持つ力です。

私はこの4月に、群馬県から伊勢の地、明和町に住まいを移しました。明和町は、ご存じのとおり、中世の600年以上にわたり、時の天皇が皇女を伊勢の神宮の神さまに仕える斎王さまとして派遣し続けたところです。ひとたび遣わされた斎王さまは、天皇の代が替わらない限り都へは戻れません。なぜそれほどまでして、天皇は斎王さまを派遣したのでしょうか。

昔の書物に、「神慮計り難し」という言葉が出てきます。「神のご意志はわからない」という意味です。東日本大震災のように、世には人間の力ではどうにもならないこと、しかも単純に善と悪とで語ることのできないことがあまりにも多いが故の言葉です。それは時として國の存亡をも左右します。ですから、斎王さまはここ伊勢の地で、良きことと悪しきことが上手に調和し、その結果として世が平安でありますようにと、伊勢の神宮の神さまに一心に祈られたのです。

明和町では、この斎王さまの御心を偲ぶことで現在の私たちのあり方に思いをめぐらす「斎王まつり」を地元の方々が創始し、今年で32年目になります。また、斎王さまの御心と調和の祈りを表現した舞である「斎王の舞」が創作され、子どもたちが継承しています。この舞も21年目です。私は10年前にこの舞とのご縁をいただき、現在、保存会の顧問をさせていただいているです。

「斎王の舞」を舞う子どもたちの姿は、町内はもとより、町外、県外の人々に、不思議な、そして非常に強い感動を呼ぶようです。人々は何に感動するのでしょうか。それはもしかすると、「調和の姿」なのかもしれません。子どもたちは、技術的にはまだ未熟です。でも、その姿には過不足のない、そして意図的に演じられたものではない調和があります。伊勢の地、斎宮の調和した空気感を知る子どもたちだけが現出させることのできる姿です。県外のある方は、その姿を「本当の清らかさ」と表現して涙を流されました。どうか、何も先入観を持たずに、一度、ご覧になってみてください。雅な斎王まつりと清らかな斎王の舞、きっと、何かを感じていただけること思います。それは、現代の私たちの心が渴望し希求する何か、なのかもしれません。

伊勢の神宮のご遷宮が、なぜ、今、これほどまでに注目され、全国的な盛り上がりを見せてているのでしょうか。そこには現代社会における「調和への渴望」があるように思います。何か特定の利益や利害ではなく、全体としての過不足のなさ、そしてそこからくる理屈抜きの安心感や素直な感謝の気持ちです。伊勢の地、そこには華美な感動も、スペクタクルな興奮もありません。でも、帰りの電車で不満そうな表情を浮かべる人はひとりもいない。そこには、静かに満足した顔があるだけです。私たちは、このことを今一度深く考えてみる必要があるのではないかでしょうか。そして、同じことが、「伊勢赤十字病院とは？」との問い合わせを考えるときの手掛かりになります。

伊勢赤十字病院が、その置かれた地域医療状況だけから見れば大変きびしい立ち位置にあることは、私だけでなく、地域の多くの方々が理解していることでしょう。しかし、それは果たして悪いことだけなのでしょうか？きびしい地域医療の典型としてだけ、見られるべきものなのでしょうか。私は、それは違うと思います。

伊勢赤十字病院は、否応なく「地域全体として非常に高度に調和した医療」を実践しなければなりませんが、見方を変えれば、それが可能な位置にあるのです。実績もあります。日本の中で伊勢赤十字病院だけができる「地域調和の医療」の姿です。それを体現し、全国に発信し続けることができるのです。これは、祈りと調和の地にあるが故の大きな利点です。

二十年に一度のご遷宮は、伊勢はもとより、日本中の人々が、心を合わせ、力を合わせて、調和の姿と心を再構築し、再認識する重要な機会なのではないでしょうか。日本の神さまの観念では、人間は本来、調和の取れた存在とされていますから、本来あるべき、あるはずの調和を取り戻すことは、すなわち再生、再出発を意味します。伊勢の地をあらわす「常若の聖地」という言葉の意味を、私は、そこに身を置くことで、いつでも本来の調和の感覚を取り戻すことができる場と理解しています。

ですから、ご遷宮は、地域社会と伊勢赤十字病院が、地域医療のあるべき姿、あるはずの姿について、心を合わせ、力を合わせて、あらためて考えてみる、またとない機会でもあるでしょう。皆さんは、どのような姿を思い浮かべるでしょうか？伊勢の空気に馴染む「過不足のない調和した地域医療」を体現する伊勢赤十字病院、その姿を、私は「斎王の舞」を観ながら思い描きます。

子どもたちの舞扇とその視線の先に、皆さんは何を見るでしょうか？



Q: 胸部外科について教えてください。

胸の外科ですね。本来は呼吸器、心臓系、食道系ですが、当院では、主に呼吸器、心臓血管、末梢血管であり、食道は行っていません。胸部外科の H24 年度における年間手術件数は 358 例です。そのうち半数以上が心臓血管系の手術となります。当院の診療圏は主に三重県南部地方であり、この地域の唯一の胸部外科施設としての役割を果たしております。伊勢市及びその近郊にお住まいの方を中心に、松阪・志摩・紀州地区にいたる広範囲な地域からも受診していただいております。

Q: 何に力を入れていますか？

お笑いですね。「医師であるために人間であれ。人間である前にお笑いであれ。」という信条で日々過ごしております... というのは冗談であり(笑)、循環器科・呼吸器科・放射線科等との連携及び地域開業医や基幹病院との連携を深めることで、胸部外科関連疾患の早期発見・早期治療に努め、ますます低侵襲で質の高い治療を提供できますよう、365 日 24 時間体制で頑張っています。より安全で患者に負担の少ない、最新の治療を積極的に取り入れています。

Q: 将来の展望を教えてください。

低侵襲・ハイクオリティを目標としており、適応症例に対しまして、積極的に取り組んでいます。さらに新しい治療法に積極的に取り組み、真摯な態度で精進努力をいたしております。近年では、動脈瘤に対するステント治療は、材料・手技の向上によってその適応が拡大しております。また肺がんに対しましては、胸腔鏡を用い、小開胸手術 hybridVATS 法を取り入れることで、早期離床・疼痛軽減・美容的利点をもたらすことができています。三重県南部地方の唯一の胸部外科施設であり、この地域を引っ張っていく存在でありたいですね。



胸部外科での取り組み

平成 19 年度より、動脈瘤に対するステント治療は認可された施設のみで可能となりました。当院も県下で 3 施設のみに（四日市市民病院・三重大学医学部附属病院・伊勢赤十字病院）認められている動脈瘤に対してのステント治療認定施設となっております。現在、厚生労働省に認可されてる動脈瘤ステント治療は、腹部動脈瘤のみです。

しかし、器具の発達・手技の確立から、今後は胸部の動脈瘤に対しても保険適応していくものと思われます。現在、当院胸部外科では、腹部動脈瘤・胸部動脈瘤に対して解剖学的手技的に検討を加えた上で、可能なものに対してはステント治療を行っております。動脈瘤に対する治療としてステント治療を希望される方は、一度御相談下さい。（但し、ステント治療の限界から適応にならないこともあります。この際に手術を含めて、治療法に関しての相談をいたします。）

Q: 自慢できるところは何でしょうか？

「実るほど首を垂れる稻穂かな」を座右の銘として常に謙虚な気持ちで日々の業務に携わっています。つまり、自慢することはないことが自慢ですね。



胸部外科

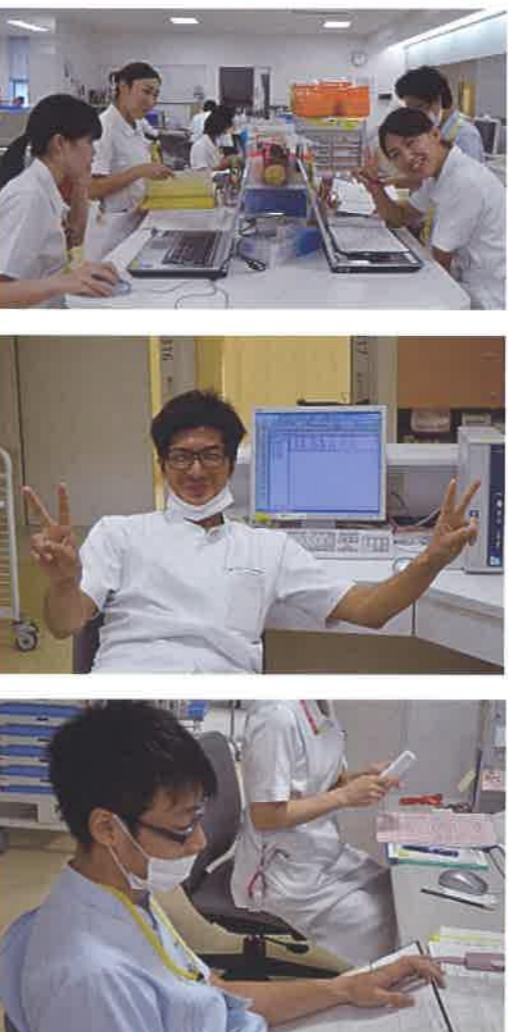


4 Y 病棟は、循環器、心臓血管外科・胸部外科の病棟です。ベッド数は 4 Y 1 病棟・4 Y 2 病棟合わせて 6 9 床で、心臓疾患や肺疾患の治療・検査を受ける患者さんが入院します。当院が急性期の病院であることから、狭心症や心筋梗塞、心不全、重症不整脈の患者さんなどの緊急入院も多く受け入れます。看護師長 1 名、看護係長 3 名、看護師 3 8 名、看護助手 5 名の計 4 7 名で、日々のケアを提供しています。そして、医師・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士・臨床工学技師などの多くの職種と協働して、患者さんに安全・安心・最も

適な医療が提供できるよう頑張っています。病棟のモットーは、「みんなで助け合い頑張る」です。師長が自画自賛するようですが、スタッフの人間関係は良いです。老若男女、患者さんやご家族とも良い関係が築けるといいなと思っています。患者さんが一日でも早く地域に戻って生活ができるよう、スタッフ一丸となって頑張っていきたいと思います。

4 Y 病棟看護師長 志賀由記子

4 Y 病棟



明るく頼りになる男性看護師

当病棟には男性看護師がおり、彼らが明るく病棟を盛り上げてくれています。患者さんの状態によってはつらい時もありますが、スタッフみんなで助け合いながら頑張っています。



松村祐愛(3年目)

看護師 1 年目、奮闘中！

4 月に入職し、まだまだわからないことが多く不安もありますが、覚えた事、教えて頂いたことを一つ一つ確実に出来るように頑張っていきたいと思っています！

循環器、胸部外科看護をもっともっと深めていきたいと思っています。



小久保知美(1年目)



チームワーク抜群の職場です！

4 Y 病棟は循環器科・胸部外科病棟で、入退院や急変も多いのですがスタッフの人間関係で乗り切っているチームワーク抜群の職場です。スタッフの年齢・キャラの幅が広く、若者は高齢者を労り、高齢者は優しく若者の指導をする理想的な病棟。。。それが自慢です！



森朋子(看護係長)



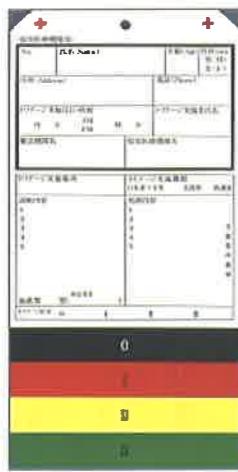
南海トラフ巨大地震発生想定 大規模災害救護訓練を実施

平成 25 年 8 月 31 日、南海トラフ巨大地震を想定した内閣府広域搬送訓練に合わせて、大規模災害訓練を実施しました。多くの人が人や病人の受け入れ訓練と、ドクターヘリにて被災していない地域への重症患者を搬送する訓練を行いました。



院内災害対策本部では被害状況の把握、情報収集・整理、関係機関との連絡・調整等を行いました。

正面玄関前では傷病の緊急性・重症度を分類するトリアージを実施。傷病者をタグの色（緑・黄・赤・黒）によって分け各エリアで治療を行いました。



伊勢志摩広域防災拠点（伊勢市サンアリーナ付近）ではSCU（ステージングケアユニット）を立ち上げ、栃木、茨城、神奈川DMATと協働し、35人程の患者の治療、広域搬送の訓練行いました。



第 5 回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会 伊勢日赤 優秀な成績収める！

去る 7 月 27・28 日に、中部ブロックの赤十字病院スポーツ大会が愛知県で開催されました。当院からは 5 種目が出場し、それぞれのチームは医師・看護師・事務職・診療放射線技師等で構成されています。

暑い中、仕事後に集まったり、休日を利用して練習に励んでいました。結果を固めて挑んだ結果、伊勢日赤は見事、素晴らしい成績を収めました。

【第 5 回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会】
中部ブロック：長野・富山・福井・静岡・岐阜・愛知・三重
伊勢赤十字病院 参加種目

◆軟式野球・フットサル・バスケットボール・駅伝・硬式テニス

◆成績◆

◆硬式テニス	優勝
◆軟式野球	準優勝
◆バスケットボール	準優勝
◆駅伝	準優勝



第 13 回全国赤十字病院スポーツ大会 伊勢日赤 大健闘！

第 13 回全国赤十字病院スポーツ大会が 9 月 21・22 日に開催され、当院からは 3 種目が出場しました。開催地は北海道旭川市！軟式野球は今大会優勝チーム和歌山に 2 回戦あたり、接戦の結果、惜しくも敗退。硬式テニスは強豪熊本に負けるも他は全勝し 5 位、駅伝は終始順位を落とさず 7 位。それぞれの部が大健闘しました。

当院 2 階の廊下にはこれまでに勝ち取った盾を飾っています。ぜひご覧ください。

【第 13 回全国赤十字病院スポーツ大会】
伊勢赤十字病院 参加種目

◆軟式野球・硬式テニス・駅伝

◆成績◆

◆軟式野球	2 回戦 敗退
◆硬式テニス	5 位
◆駅伝	7 位



地域とともにクロス！

がん看護専門の看護師がご自宅にうかがいます

「がんになっても、ずっと自分の家にいたい…」

近年、がんや治療による症状がある中でも、外来での治療が多くなったこともあり、病院ではなく、ご自宅で過ごされている方が増えています。

このような患者さんやご家族の方に安心して、ご自宅で過ごしていただくために、伊勢赤十字病院では、がん看護専門の看護師が訪問看護師と一緒にご自宅にうかがう「同行訪問」を行っています。症状を和らげる方法や抗がん剤治療などの専門的な知識を活かし、患者さんの状態に合わせて必要なケアを行ったり、患者さんやご家族からのご相談にのったりしています。



伊勢まつりに伊勢赤十字病院ブースを出展

-なりきり体験＆救急法ミニ講習会-

10月12日（土）、13日（日）に伊勢市駅周辺で開催された「伊勢まつり」にブース出展しました。当院ブースでは、医師や看護師のユニフォーム、赤の救護員服を着てドクターへリの写真の前で写真撮影の「なりきり体験」と「救急法ミニ講習会」を開催しました。また、地域のみなさまへの日ごろの救急医療へのご協力への感謝をこめたチラシ配りを行いました。



地域の方へ感謝を込めて配付したチラシ

これからも伊勢赤十字病院が地域で信頼され、愛され、親しみ続けられるよう、地域ともっともっとクロスしていきたいと思います。

伊勢日赤 第1回 病院まつり

ゆずりは祭

日時

2013年12月7日（土）10:00～15:00

会場

伊勢赤十字病院
エントランスホール・やまだホールなど

◆ステージ企画

観光戦隊イセシマンショー、クイズ大会
職員・一般の方による音楽
職員によるダンス
院内保育所「のぞみ保育園」園児による出し物

◆出店

バザー、唐揚げ、豚汁、もちつき、みたらし など

◆救急体験

ドクターへリ・ヘリポート見学、心肺蘇生とAED体験

◆医療展

なりきりキッズブース
医療機器展示・体験
地域とともにクロス！
—赤十字を知ろう！—

◆健康チェック・健康相談 など

握力測定 バランス測定 脳機能チェックなど
栄養相談 その他

主催：伊勢赤十字病院

協力：日本赤十字社三重県支部・三重県赤十字血液センター

後援：三重県



お知らせ

教室のご案内

平成 24 年度より教室を受けられた場合、健康保険適用となりますので初・再診料・集団指導料の一部負担金をお支払いいただくことになります。ご了承くださいますようお願いいたします（試食のある場合は別途材料費をいただきます）。

*必ず診察券をご持参下さい。

- 教室参加の流れ ①外来または入院病棟で予約を入れてください。
②参加当日は直接、教室会場に入ってください。
③診察券を教室の受付に渡してください。
④教室終了後、自動支払機にて清算をしてください。

●糖尿病教室

【開催日時】

12月13日（金）	9:00～13:00
平成26年 1月10日（金）	9:00～13:00
3月14日（金）	9:00～13:00

【場所】

伊勢赤十字病院 5階 会議室 7

【参加費】

500円（昼食あり）

【お問い合わせ・お申し込み】

伊勢赤十字病院 糖尿病代謝内科
外来 3番受付

●肝臓病教室

【開催日時】

平成26年 2月17日（月） 13:30～15:30	テーマ 「C型肝炎の診断と治療」
----------------------------------	---------------------

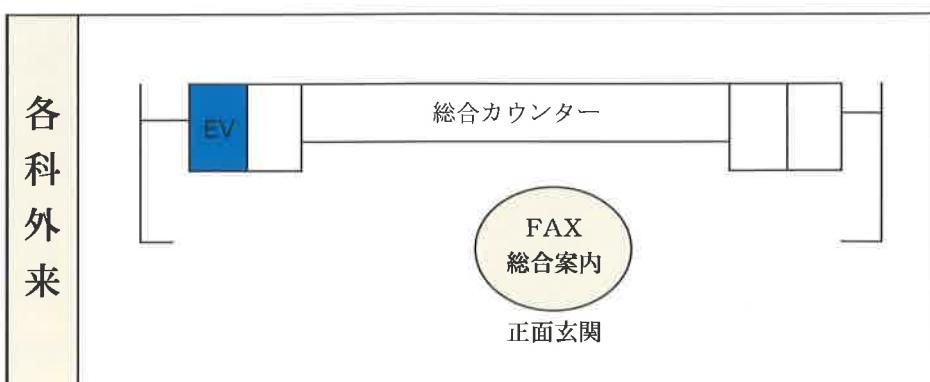
【場所】

伊勢赤十字病院 5階 会議室 7

【お問い合わせ・お申し込み】

伊勢赤十字病院 肝臓内科
外来 3番受付

5階 会議室7へご案内



ブルーのエレベーターにて5階へお上がり下さい。5階受付にて会議室7をご案内します。

